

▶ 第6章

ASEAN、米中の狭間で風見鶏

——メガFTAは「掛け持ち」

日本経済研究センター 主任研究員兼アジア予測室長

富山 篤

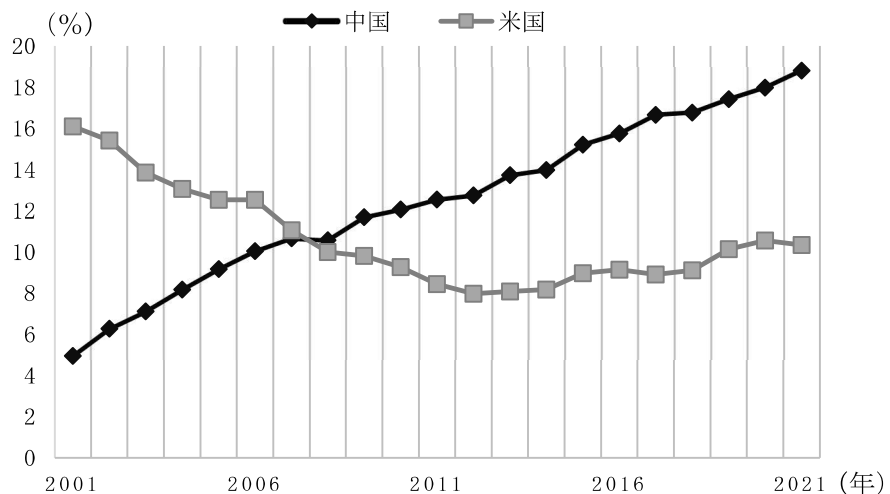
【ポイント】

- ▶ 米中のデカップリング（分断）が進む中、東南アジア諸国連合（ASEAN）は中国への輸入依存度が高まり、米国は輸出先としての魅力が高まっている。製品、原料を自国で完全に内製化できるほど国力を持った国はまだなく、中国と米国を両にらみしながらデカップリングの影響を最小化しようとしている。
- ▶ インフラ整備、海外直接投資（FDI）でも中国の存在感が高まる。カンボジア、ラオス、ミャンマーなどその“恩義”から外交面で中国に傾斜する国が増えている。全会一致が原則のASEANが一枚岩ではなくなっており、ASEANとしての国際的発言力は弱まりつつある。ASEAN内のデカップリングがさらに進む恐れがある。
- ▶ ASEAN各国の生きる道はメガFTA（自由貿易協定）への参加で、中国が主導する地域的な包括的経済連携協定（RCEP）、米国が主導するインド太平洋経済枠組み（IPEF）、環太平洋パートナーシップ協定（TPP）に相乗りする国が多数を占める。



注目データ

ASEAN10カ国の貿易総額に占める中国・米国の割合



資料：IMF “Direction of Trade Statistics” を基に作成